



press release

朝日新聞

2017年9月22日

朝日新聞社 〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2

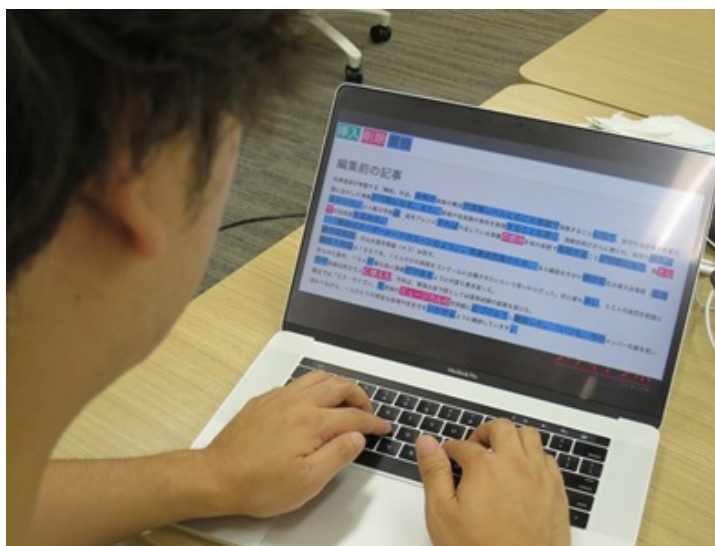
〈報道関係のみなさま〉

人工知能による文章の自動校正システムを開発、特許出願

朝日新聞社、過去の校正履歴を活用

株式会社朝日新聞社(代表取締役社長: 渡辺雅隆、以下朝日新聞社)のメディアラボ・自然言語処理チームは、人工知能を利用した自動校正システムを開発しました。また、このシステムの基礎部分に当たる発明について、特許を出願しました。

本システムでは、人工知能が文中の各単語をチェックし、文脈を読み取ったうえで、必要かつ最適な置き換え候補を出力することができます。カギを握るのが、朝日新聞社が日々の新聞編集で蓄積してきた、ベテラン記者によるデスク作業(文章を整える仕事)における校正履歴です。記事化に要した実際の校正内容を大量に人工知能に読み込ませ、パターンを機械学習させることで、新しい文についても、単語単位なら複数の置き換え候補が考えられる場合にも、文脈に応じて最適候補を絞り込むことが可能になりました。



朝日新聞で編集される年に約20万本分の記事で言葉の挿入や削除、置き換えを機械学習させている

>

contact

〈お問い合わせ〉

朝日新聞社 メディアラボ

media-lab-contact@asahi.com



press release

朝日新聞

2017年9月22日

朝日新聞社 〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2

本発明は、メディアラボが東北大学・乾健太郎教授、東京工業大学・岡崎直観教授との間でアドバイザー契約を締結し、一緒に研究を進める中で生まれました。現在、プロトタイプが完成し、今後はさらに精度や使いやすさを向上させ、製品化に向けて開発を進めていきます。朝日新聞社内での活用にとどまらず、将来的には社外向けに事業化を検討します。

朝日新聞社は、新規事業の開発や人工知能をはじめとする最先端技術の研究にあたるメディアラボと、社内のシステム開発や技術者の育成を担う情報技術本部が中心となり、人工知能を利用した新事業開発・業務改革を進めています。

■特許出願の概要

出願番号：特願 2017-132713

発明の名称：校正支援装置、校正支援方法及び校正支援プログラム

特許出願人：朝日新聞社

■朝日新聞社メディアラボ

2013年6月発足。メディア環境の激変に立ち向かいながら、5年、10年先を視野に事業刷新と成長をめざし、新たなメディアの創造を含む新商品・新事業の開発、最先端技術の研究に取り組む。

URL：<http://www.asahi.com/shimbun/medialab/>

以上



〈お問い合わせ〉

朝日新聞社 メディアラボ

media-lab-contact@asahi.com